

歯科衛生士口演

(D会場)

5月25日(土) D会場 11:50~12:10

D会場

HO-01~02



HO-01

多剤服用歯周病患者に対する歯科衛生士のアプローチ

小澤 かおり

キーワード：慢性歯周炎、多剤服用、全身疾患、歯周基本治療

【はじめに】多全身疾患を有し、多剤服用する慢性歯周炎患者に対して、服用薬の影響を考慮しながら歯周基本治療を行い安定した経過を得ている症例を報告する。

【初診】患者：64歳男性 初診日：2014年7月16日 主訴：右上奥歯が痛くて咬めない。

全身既往歴：慢性腎不全（10年前発症、人工透析を受けていたが、5年前に腎移植）、高血圧症（10年前）、多剤服用

【診査・検査所見】初診時、PCR：67.9%、BOP：45.2%、PPD4mm以上：65.9%。歯肉腫脹および清掃不良。舌側、口蓋側に多量の縁上、縁下歯石。

【診断】広汎型中等度慢性歯周炎

【治療計画】①歯周基本治療 ②生活習慣指導 ③上顎PD ④再評価 ⑤SPT

【治療経過】①歯周基本治療 ②生活習慣指導 ③14RCT、CR ④カンジダ検査 ⑤上顎PD ⑥再評価 ⑦SPT

【考察・まとめ】患者は長期間にわたり歯科介入がなくブランクコントロールが確立しておらず、モチベーションも低い状態であった。患者に口腔内の現状を理解させ、服用薬の影響等を説明し歯周治療の必要性を話したところ積極的なセルフケアの取り組みを得る事ができた。歯周基本治療で改善がみられなかった粘膜部の違和感に対する訴えに関しては、服用薬の影響も考えられることから口腔外科あるいは医科と連携を取ることが重要であると感じた。

本症例のように多剤を併用服用している患者は高齢者を中心に増加しているため、服用薬剤の副作用についての知識を持ち、歯周炎だけでなく口腔乾燥や歯肉増殖等にも配慮する必要があると考える。今後も洗口剤の併用をしながら、短期間のSPTにより経過を追う予定である。

HO-02

入院患者に行う歯科衛生士の周術期口腔機能管理

若松 春菜

キーワード：周術期口腔機能管理、細菌測定装置、口腔粘膜清掃、口腔内保湿、ウォーターピック

【はじめに】周術期の患者に対し積極的な口腔ケアを行うことは誤嚥性肺炎やその他の感染症を予防する上で極めて重要である。鶴見大学歯学部附属病院口腔外科では、悪性腫瘍・エナメル上皮腫・骨折・顎変形症の患者に対し、入院前・術前・術後・退院後に歯科衛生士が積極的な周術期口腔機能管理を行っているのでその症例を報告する。

【症例】症例1：78歳、女性。右舌癌Stage IVと診断され、頸部郭清術、舌垂全摘、前腕皮弁再建を行った。患部の疼痛が強いが、口腔のケアが術後に影響を与えることを説明し、キシロカインゼリーで痛みを緩和しながらネオステリングリーンを浸したスポンジブラシによる粘膜清掃を行った。口腔ケア前後に細菌測定装置を用い細菌数を測定し客観的な数値で口腔の衛生状態を把握するようにしている。

症例2：23歳、男性。顎変形症と診断され、上下顎同時移動術を行った。術前から術後の口腔ケアに使用するウォーターピックの指導を行い、術後の口腔管理がスムーズに行なえるようにしている。術後ケアは、病棟にて、歯ブラシ、ウォーターピックを1日3回以上使用している。顎間固定除去後にも外来で口腔ケアを行っている。

【まとめ】あらかじめ患者に、術後の口腔ケアが手術の経過に影響することを十分に理解させることで、術後の口腔ケアをスムーズに行うことができた。また、実際に口腔内がどれくらい清潔に保たれているかを細菌数で示すことは、患者のモチベーションを維持するのに有用であるばかりでなく、管理する側においても重要な指標となった。歯科衛生士が中心となり、細やかな口腔機能管理を行う事は術後感染を防ぐ重要な仕事と実感した。